

## 大阪府立四條畷高等学校 創立 120 周年記念式典 式辞

飯盛山からの風に秋の深まりを感じ、色鮮やかな紅葉の美しさに心が弾む季節となりました。本日、この良き日に、大阪府教育庁ご代表 理事兼教育次長 松阪博文 様をはじめ多数のご来賓の皆さまにご臨席を賜り、ここに大阪府立四條畷高等学校創立 120 周年記念式典を盛大に挙行できますことは、教職員、在校生にとりまして誠に大きな喜びであります。また、創立 120 周年記念事業として、楠葉会並びに P T A の皆さまから、多くのご支援を賜りましたことに、心よりお礼申し上げます。

さて、本校は、1903（明治 36）年に大阪府立第九中学校として飯盛山を仰ぐ北河内の地に創立されました。以来、教育方針として『質実剛健』『文武両道』を掲げ、『自主・自律・自由』の精神を育み、地域からは「畷高」の愛称で親しまれてきました。卒業生は 3 万人を優に超え、あらゆる分野で、そして世界中のいたるところで各界のリーダーとして社会に貢献されています。

創立 110 周年から現在までの 10 年間を振り返りますと、大阪府から指定されたグローバルリーダーズハイスクール（G L H S）や文部科学省から指定されたスーパーサイエンスハイスクール（S S H）としての教育活動が定着し、本校の発展に大きく寄与した 10 年だったように思います。課題研究や本校オリジナルの国際交流は、生徒の課題発見力や発信力を大きく向上させ、国際的視野を広めました。また、進路指導計画『なわて』に基づく系統的な進路指導は、生徒の高い志を育みました。一方で、2020 年からの後半期は、新型コロナウイルスの感染拡大によって、あらゆる教育活動が制限されました。とても辛い時期でした。しかし、そのような逆境の中でも、生徒たちは、できないとあきらめるのではなく、今できることは何かを熟慮し、様々な工夫を凝らして、コロナ禍での新しい畷高祭や体育祭を創り上げてくれました。

松尾芭蕉が示した俳諧の理念に「不易流行」があります。いつまでも変わらない本質的なものを大切にしつつ、新しい変化も取り入れていくという考え方です。先ほど述べた課題研究や国際交流が「流行」にあたるのであれば、畷高にとっての「不易」とは何でしょうか。

『畷百年史』や『創立 110 周年記念誌』、『120 周年記念誌』を繙きますと、卒業生の方からたくさんの方の寄稿文が寄せられています。そして、多くの寄稿文には、「勉強だけでなく、部活動や行事に全力で取り組んだこと」、「一生お互いに刺激し合える、素晴らしい友人と出会えたこと」、「厳しくも温かい、個性豊かな恩師に出会えたこと」などが、「畷高生の誇り」として、楽しい思い出とともに語られています。

「自主・自律・自由」の精神の下、勉強だけではなく、行事にも部活動にもまっすぐに、全力で取り組み、本気で楽しむ。その過程で仲間と切磋琢磨し成長する。このことこそが、暁高創立以来、代々の暁高生に引き継がれてきた暁高生としての矜持、暁高の「不易」であると私は信じます。

今、国際社会は、ロシアによるウクライナ侵略、中東ガザ地区における戦闘と深まる人道危機、世界的規模での環境破壊、生成AIのリスク管理など、解決が困難な様々な問題に直面しています。私は、このような混沌とした時代を切り開いていくのは、皆さんのような「若い世代」であると思っています。なぜなら、皆さんには、多様性を尊重し、固定観念や過去の価値観にとらわれない広い視野と柔軟な発想があるからです。

「76期生、77期生、78期生の皆さん、皆さんは暁高の宝です。皆さんが、授業に、部活動に、行事に全力で取り組んでいる姿は本当にかげがえのないものです。先輩から引き継いだこの素晴らしい伝統が後輩へと引き継がれ、これからの暁高の歴史を創っていきます。自分の人生を豊かにするため、社会に貢献するため、そして勇気をもって決断できるグローバルリーダーになるため、これからも学び続けてください。

暁高は、「生徒と教職員が一緒に頑張り、ともに向上する」という伝統を大切にしながら、生徒一人ひとりの学力伸長や進路実現を図り、「日本一の教育が受けられる高校」という理想の高根をさらにめざして、これからも前に進んでいきます。

最後になりましたが、創立120周年記念事業の実施に当たり、多大なるご支援、ご協力をいただきました実行委員会会長 竹内 脩 様をはじめ、楠葉会、PTA、楠陽会、現旧職員の皆様など、多くの方々に改めて感謝を申し上げます、私の式辞といたします。

令和5年11月11日  
大阪府立四條暁高等学校  
校長 稲葉 剛